

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671900231
法人名	社会福祉法人 南陽恵和会
事業所名	こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家
訪問調査日	平成 19 年 9 月 14 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 8 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	671900231		
法人名	社会福祉法人 南陽恵和会		
事業所名	こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家		
所在地 (電話番号)	山形県南陽市川樋508番地 (電話) 0238-49-2810		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年9月14日	評価確定日	平成19年11月8日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算	6.9 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	1階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000円、他
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 150 円
	または1日当たり 850 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 80 歳	最低 70 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団公德会 佐藤病院、公立置賜南陽病院、佐藤歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の特別養護老人ホームが早くから開所されたことにより、グループホームの理解も得られ、交流も図られるなど、地域に根ざしたホームです。管理者と職員は、「その人らしい生活」が送れるよう一人ひとりの生活や趣味を尊重し、また、日頃の関わりから可能性を見い出すように努めながら、一人ひとりのペースを尊重した支援に取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 緊急時の応急手当等をホームの職員が十分に行えるようにしていく取り組みとして、重度化委員が中心となり、年2回の防災訓練の際に、救急法講習を職員全員が受講している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価はホーム長が行っており、評価の意義の理解や職員の取り組みは十分になされていないため、すべての職員が評価に関わることで、評価の意義の理解と評価を活かした改善への取り組みの成果を高めていく取り組みが期待される。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催され、運営推進会議や評価の説明、利用者の現状や行事内容について報告や話し合いが行われている。また、家族から感染症(O-157)対策として、食器などの衛生面についての質問が出され、ホームでの対応を伝えると共にサービスにも活かされた例があった。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会があった際、意見を伺う時間を家族から設けてもらうようにしており、また、受診の際に家族と一緒に付き添うことによって、様々な意見を自由に言ってもらえる関係ができてきている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域への広報活動を積極的に進めること、地域との話し合い・交流・連携の場である懇談会等に参加することが開設以来行われてきており、ホーム利用者個々人に児童館から招待状が届いたり、ホームの敬老会には地域の方をお誘いしたりしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各年度ごとに、職員間で話し合いを行い理念の見直しをしているが、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容までには至っていない。	○	地域交流を通じた地域の理解が得られてきている状況も踏まえながら、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込んだ、事業所独自の理念をつくりあげていくことが期待される。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、ミーティングや個別の話し合いを行いながら理念の共有を図り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域への広報活動を積極的に進めること、地域との話し合い・交流・連携の場である懇談会等に参加することが開設以来行われてきており、ホーム利用者個人に児童館から招待状が届いたり、ホームの敬老会には地域の方をお誘いしたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価はホーム長が行っており、評価の意義の理解や職員の取り組みは十分になされていない。	○	すべての職員が評価に関わることにより、評価の意義の理解と評価を活かした改善への取り組みの成果を高めていく取り組みが期待される。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、運営推進会議や評価の説明、利用者の現状や行事内容について報告や話し合いが行われている。また、家族から感染症(O-157)対策として、食器などの衛生面についての質問が出され、ホームでの対応を伝えると共にサービスにも活かされた例があった。		

山形県 こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の内容について相談したり、案内のあった市主催の研修会に今年の秋から参加する予定を組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員異動は広報誌で伝えながら面会時に家族に紹介し、健康状態は月1回の担当者からの手紙や状況に応じた電話で報告している。金銭管理については、出納伝票は保管されているが、定期的に報告することや家族の確認印をもらうまでには至っていない。	○	金銭管理状況について、家族等への定期的な報告の取り組みと報告内容の確認方法の検討が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会があった際、意見を伺う時間を家族から設けてもらうようにしており、また、受診の際に家族と一緒に付き添うことによって、様々な意見を自由に言ってもらえる関係ができてきている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動については事前に利用者に伝え、ホーム便りを渡している。交代した新しい職員は個人ごとに紹介し、馴染みやすいように配慮して、利用者の状況を見ながら職員間でサポートできるようにしている。異動は最小限で対応されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護職員研修や感染症についての外部研修及び法人内研修を受講している。また、全体会議での研修内容の伝達や研修資料の配布もなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム職員の研修の受け入れはしているが、ホームから他のホームに出向いて交流することはまだ行われていない。	○	地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みが期待される。

山形県 こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事の笹巻き作りでは、笹の巻き方や糸かけを教えてもらったり、食事の味付けを教えてもらうなど、生活の中で教え支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家族からの話を聞きながら、意向の把握に努めている。また、日頃から関わりを持ち、利用されてから、周りの人の様子を見て今までできなかった食器拭きを始めるなど、意欲的になられた方もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には面会時や電話で連絡を取り、また、常日頃の行動の中から職員間で話し合いを持ちながら、趣味や活動の継続を目指した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに、計画についての見直しと家族による確認が行われており、また、状況変化時に応じて見直しもなされている。		

山形県 こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医と連携が図られており、いつでも気軽に相 談ができ、指導を受けられる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	利用開始時に、状態変化に対する対応について説明 し、変化時には、医師や家族、職員で話し合い、職員 会議で方針を出して全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者に対する職員の声かけや介助の仕方は穏やか であるが、職員を呼ぶ利用者の声が聞こえるようにと開 けている半開きの居室ドアから、下着姿で部屋の中 にいる利用者が見えてしまう状況が見られた。	○	居室内の様子が廊下から見えないように暖簾やカーテン を用いてみるなど、利用者の好みにも配慮しながら、プ ライバシー保護の工夫を進めていくことが期待される。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の早い人や遅い人のテーブルに分け、自分の ペースで食べられるように工夫しており、また、窓の外 を眺めている利用者がいれば、外に出てみられるように 声かけと準備をするなど、一人ひとりの思いを大切に した支援がなされていた。		

山形県 こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れながら作っており、食べやすいように個人の状態に合わせて、お粥や刻んだオカズが提供されていた。職員は介助の必要な方の側に座り、話しかけをしながら共に食事を摂っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望により入ることができ、利用開始時に家族へ説明されている。また、過去に夜間入浴も行っていたが、希望される方がいないため、現在は行っていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙や書道の得意な方の作品がホームの装飾に役かっていたり、食器拭きや畑仕事、ゴミ出し等の役割があり、散歩や地域のお祭りに出かけるなどの気晴らしの支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の負担を軽減するために職員付き添いによる受診が多くなり、利用者の希望に添った外出が少なくなってきたが、一人ひとりの外出の頻度や間隔を考慮しながら、家族の協力も得て対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全ての職員は、ホームは家庭の延長であるとの認識を持ち、鍵をかけることの弊害を認識している。また、夜間、外へ出たい方には、法人の夜警員の協力も得ながら対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、法人と合同で夜を想定して年2回実施し、ホーム単独では1回行われている。また、地域消防団や消防署と緊急時のホットラインが整備されている。		

山形県 こぶし荘認知症高齢者グループホームこぶしの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量はその日のうちにトータルで出しており、法人栄養士の協力を得て、月1回カロリーをチェックしてもらいアドバイスをもらっている。また、状態不良時は食事や水分のチェック表を記入し、高カロリー食などの代替対応がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の落ち着いた雰囲気、広い廊下や居間は車椅子の方でも自由に行動でき、ゆったりとした居心地のよい空間になっていた。また、浴室には重度化した利用者が安心して入浴できるよう、シャワー・チェアなども準備され、安全に配慮した工夫もされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやベッドが持ち込まれ、壁には家族との写真や趣味の絵画、書道、折り紙などが飾られ、居心地よく過ごせるように工夫されていた。		